平成 21 年度 前半期 東北地区日産婦学会・医会連絡会

日　時：平成 21 年 6 月 7 日（日）午前 8:45-9:35
会　場：仙台国際センター　2 階　「萩」

Ⅰ　開会の挨拶および第 127 回 東北連合地方部会総会について　［学会長］ 中川　公夫

Ⅱ　東北連合地方部会役員会　［常任委員］ 八重樫伸生
・常任委員は東北大学教授となっているため今年度から八重樫教授を常任委員とすることが承認された。

報告事項

1.　第 6 回 東北産婦人科研修医会　（資料 1）　千坂　泰
6 月 6 日に研修医会が執り行われ活発な議論があった。

2.　第 57 回 北日本連合地方部会（札幌医大）(資料 2&3)　千坂　泰
（第 128 回 東北連合地方部会）
資料２にこれまでの開催について記してある。
本年の北日本連合地方部会の開催については資料の通り。

3.　第 129 回 東北連合地方部会（岩手地方部会）(資料 2&3)　松田　壮正
５月２２日、２３日ホテルメトロポリタン盛岡の本館で行う。

4.　第 58 回 北日本連合地方部会（金沢大学）（資料 2&3）　千坂　泰
（第 130 回 東北連合地方部会）
本来であれば来年は秋田が担当だが、田中教授の退官に伴い秋田を飛ばして金沢医大が担当する。９月１８、１９日に金沢の文化会館で行う。

5.　庶務報告　（資料 4-6）　千坂　泰
・役員一覧について
八重樫；福島の会長は佐藤章先生のままでよいか？
山田；次の教授が決まるまでそのままでよい。
・会員数について報告があった。
・物故会員について報告があった。

6.　日本産科婦人科学会 理事会/代議員会　八重樫伸生
八重樫；役員の改選については吉村先生が理事長再任。和気先生、落合先生が副理事長になった。岩下先生が総務となった。
倉知；専門医について。専門医制度を組織化しなければならない。第３者的な専門機関を立ち上げそこに委託する。専門医の人数なども検討されている。産婦人科専門知識も改定を行う予定。
岡村；産婦人科学会理事会について。吉村先生が理事長再任。和気先生、落合先生が副理事長に。岩下先生が総務。自分が監査幹事、その他、山梨の星先生、神戸の丸尾先生も。今期東北からの幹事はいない。６月から常務理事会に寺田先生が出席する。これは年に２回行われている。話題として、①日産婦の新会員が２０年に４５７人、

１５年４１５人でそれを上回る数になり、底は抜けたと思われる。年齢別では３０歳未満の７０％が女性。３０代でも５５％が女性。トータルでは２６．６％が女性なので、若い人の半分以上は女性医師。②６月に理事会がある。医療事故に関するワーキンググループが設置される。警察に届ける事項を産婦人科として検討する。届け出るものの表記を標準的なことから著しく外れた医療を意図的に行ったものとしてほしい旨を学会として依頼していく。第６５回日本産婦人科学会の会長の公募が行われる。インフルエンザの問題で、妊婦に対する対応はホームページにのっている。

産婦人科の分娩費用について。医師に対する国からの補助金をどこに出すかという問題は、厚生労働省の基準では分娩費が５０万以下のところに出すとしている。調査では　　分娩費用は東が高く西が安い。東京が最も高い。理事長名で、出産費による差別はやめていただきたい旨提出する。

日本産科婦人科学会の法人化について。昨年１２月に法律が変わり、今までの法人は解体、公益法人になるかどうかを５年会内に決める。４月に公益法人になることが決定した。学会のステータスの問題と将来的な学会の運営に関して公益的な事業をやると税金が安くなるため。公益法人化すると会計の問題がでてくる。公益法人はオープンにしなければならない。地方部会は下部組織としての認識だと会計も連結したものにしなければならないが、現実的には難しいので地方部会は本体と切り離して運営することになる。地方に連絡員を置くという文言になっている。会則でも日本産科婦人科学会という文言は使えなくなる。来年の１月あたりには申請することになるので、そのころから会則についても協議が必要。名前も日本産科婦人科学会は使えなくなるので宮城産科婦人科学会など決めていかなければならない。会計の問題に戻る。公益法人になる場合、総会を開いて会計を認めてもらわなければならない。６月３０日までに文科省に会計を提出するので６月２７日に臨時総会を行う。東京フォーラムで代議員の総会を行い会計を承認する必要があるので、欠席の人は委任状を準備。４月に学術集会を行い６月に会計の総会が必要になるので、今後は５月か６月に学術集会と総会を一緒に行い採決するか、決算を１２月にするなどが必要。

協議事項

1.　**第 131 回 東北連合地方部会の担当地方部会（青森県）　　八重樫伸生**

水沼教授より、弘前大学が担当することを了承。

2.　**平成 20 年度 東北連合地方部会収入支出決算（資料 7）　　千坂　　泰**

東北連合地方部会誌を 1000 冊以上発行しており、200 万円くらいかかっている。昨年は発行しなかった。200 万かけると繰越金も減っていく。また会員も減って収入も減っていくので検討が必要。

3.　**東北連合地方部会雑誌とホームページについて　　八重樫伸生**

東北大学のホームページからリンクして地方部会のページへ行けるようにしてある。プログラムや議事録などが載っている。これは無料でできる。これで地方部会誌の代わりにできないか？　これにより支出を 200 万円くらい削減できるので、そのような方向ではどうか？という説明があった。

倉智教授より、会誌発行は支出において負担になっているのは明らかである。オンライン化はリーズナブルと思われる。東北大学のホームページにリンクすることによる費用の優位性はある。

岡村先生より、ジャーナルをやめるわけではないのなら、オンラインでやるのは賛成。和文の原著を出すにはいいところと考える。
鍵谷先生より、日産婦の地方部会にリンクするなら、東北大のホームページでもよいと考える。
岡村先生より、北日本のものもあるが、東北連合以外の医師の発表も載っている。北日本地方部会でも議論が必要。

4.　平成 21 年度 東北連合地方部会収入支出予算（資料 8）　千坂　泰

会誌発行費を差し引いても少しずつ予算は減っていく。
北日本地方部会開催の補助金を 100 万円に増やす。
予算は承認。

5.　平成 21 年度 後半期日産婦学会・医会連絡会の日程　千坂　泰

平成２２年２月２８日の日曜日に行う予定。
前日に日産婦の理事会があるのでその情報も持ってきていただくための日程である。

6.　東北内視鏡懇話会について　寺田　幸弘

寺田；東北内視鏡懇話会を東北連合に併催させていただきたい。理由は会員数が減ってきていることと、東北大学でボランティアとして運営しているのも限界となってきている。認められれば第２，３会場などで半日、内視鏡に関連した演題や特別公演を行いたい。繰越金も連合に含めてよい。
岡村；会計も一緒にするということは、東北連合の一部に組み込んでしまうということでよいのか？
寺田；立ち上げてもつぶれてしまった会も多いので、併催として続けていきたい。
八重樫；吸収合併というような形でやっていきたいと考えている。
松田；吸収合併という形がよいだろう。
寺田；まだ役員会にはかっていないので今後役員会で検討する。
高橋）財政的に厳しくなる会は今後もでてくるだろうか、今回は認めて次はだめというのは良くないので、規則を決めて行うべき。今回の吸収合併の話には賛成。
八重樫；時間もないので、また各県の方々と話して決めていきたい。継続審議ということにします。

7.　その他

岡村；第３回 SGI サミット 2009 を 11 月 12 日から 14 日に国際センターで行う。テーマは preeclampsia。SGI は北米、ヨーロッパではランクの高い学会でシンポジウム形式の学会。ぜひ参加していただきたい。参加費は 5 万かかるが食事代も含まっている。アジア各国にも参加を呼び掛けているがなかなか集まらないのでぜひ参加していただきたい。
水沼；内視鏡懇話会の話に戻るが、研修医会も最初は学会以外でやるという話だったが東北連合に組み込まれている。その他にも組み込まれてきているものがあるので運営方針について、予算の問題もあるのできちんと議論をしていただきたい。

Ⅲ　日本産婦人科医会 東北ブロック協議会　　**[ブロック長] 中川　公夫**

報告事項

1.　平成 20 年度庶務・事業報告　　**高林　俊文**

高林先生より資料１のとおり説明があった。

協議事項

1.　日本産婦人科医会東北ブロック会収入支出決算　　**高林　俊文**

監査をしていただき承認していただいた。

2.　その他

幡先生より、医会の本部で会計について説明があった。

Ⅳ. 閉会の辞　　中川　公夫